

たか ずみ みや の たに 高住宮ノ谷遺跡の発掘調査

平成 26 年 11 月 15 日 (土)
現地説明会資料
(公財) 鳥取県教育文化財団

高住宮ノ谷遺跡は国道 9 号線（鳥取西道路）改築に伴い、公益財団法人鳥取県教育文化財団が今年 4 月から発掘調査を行なっています。遺跡は湖山池に流れ込む三山口川の谷底平野に面する小さな谷と、その南北の丘陵部に広がっています。

当遺跡の東側には平成 21～23 年に調査された「高住平田遺跡」が隣接しています。古代・中世の流路や掘立柱建物、漆書記号のある土器や木製品など、下層からは縄文土器や石器も見つかっており、この周辺が縄文時代から人々の活動の場であったことがわかります。

高住宮ノ谷遺跡では、2 区北側丘陵部で掘立柱建物が 3 棟以上、3 区南側丘陵部で竪穴建物 2 棟、掘立柱建物 1 棟などが確認できました。このほか、土坑や溝、多数の穴などが見つかっています。中央の谷部は、古代から現代まで連綿と水田として利用されていたようです。遺跡からは、古墳時代後期（約 1,500 年前）～中世（約 600 年前）を中心とする時期の土器や陶磁器、木製品のほか、縄文～弥生時代の石器、土器も見つかっています。

なお、当遺跡付近から昭和 11～13 年頃に弥生時代中期（約 2,100 年前）の流水文銅鐸（「高住銅鐸」）が発見されています。発見推定地の一つは今回の発掘調査地に該当していますが、関連する遺構は見つかっていません。



ふいご羽口
製鉄や鍛冶の炉に空気を送る送風管の先端に取りつけるもので、高熱により溶けて先端が黒く変色しています。



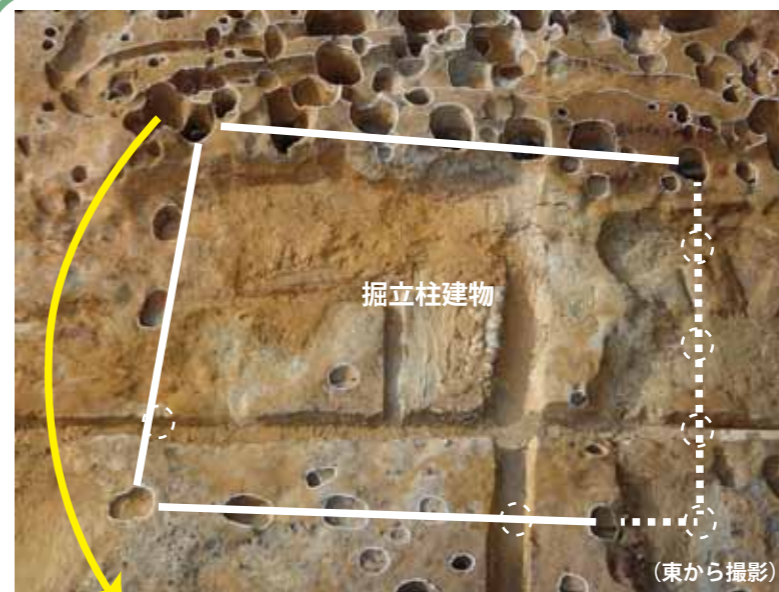
柿経（こけらきょう）
細長い薄板に法華経を墨書したもので、死者への供養などとして書写し、寺院に奉納したり、儀式の後に水に流したりしたようです。県内初の発見例です。



陶馬・土馬
粘土で馬の形につくり焼いたもので、主に水のまつりに使われました。



高住宮ノ谷遺跡 遺構配置図



掘立柱建物

2 区北東部では多数の穴や溝が見つかっており、掘立柱建物が何棟か建っていたことがわかりました。

1 棟は、6 間×4 間（約 7.8m×約 6m）の規模に復元できました。直径約 70cm、深さ約 90cm、ほぼ円形の柱穴の底に、断面長方形（幅 25cm、厚 10cm 程度）の柱の根元が残っており、長辺を建物の桁方向に合わせて立てていました。古墳時代後期（約 1,500 年前）のものと考えられます。

このほか、4 間×2 間以上の比較的大型の楕円形柱穴を持つ掘立柱建物や、南側丘陵地でも 3 間×2 間以上の掘立柱建物を確認しています。



←柱穴には板のような柱が残っていました。



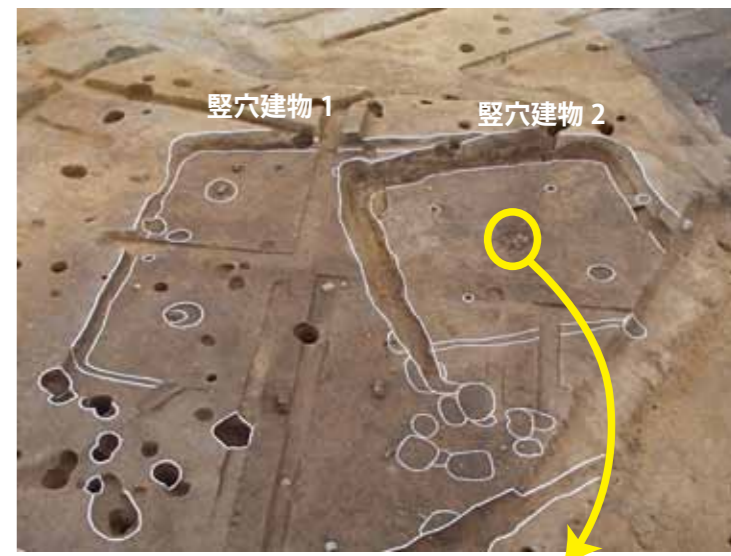
(南東から撮影)

竪穴建物

3 区南側で見つかった竪穴建物 2 棟は、南西側を中心に掘り込みがよく残っていました。2 棟は重なり合っており、建物 1 が埋まった後に新しく建物 2 を掘り込んで作っていました。

どちらもほぼ正方形の平面形で、4 本の柱穴が見つかっています。建物 1 の方がやや大きく、床面で 5.7×6m 以上、建物 2 は 4.4×4.3m の大きさです。見つかった土器から、建物 1 が古墳時代終わり頃（約 1,400 年前）、建物 2 が古代の初め頃（約 1,350 年前）に建てられたと考えられます。

建物 2 の中央では、土器（甕）が外面を上に向けて並べられた状態で見つかりました。意図的に並べられており、周囲からは炭が多量に見つかりました。土器の下は少し凹んで強く焼けており、「炉」として使われていたと考えられます。



竪穴建物 1 では須恵器の高坏が見つかりました。



竪穴建物 2 で見つかった、炉の上に置かれた土器。すべて外面が上を向いています。

高住牛輪谷遺跡の発掘調査

高住牛輪谷遺跡は、高住宮ノ谷遺跡から東に500mほど離れた丘陵のすそにあります。ちょうど、高住の谷をはさんで、宮ノ谷の真向かいにあたります。これまで、平成23・24年度に発掘調査をしており、縄文時代後期(約3,500年前)以降、現在にいたるまで、ほとんど途切れることなく人びとの活動の舞台になっていたことが分かっています。なかでも、古墳時代の初めごろ(約1,700年前)と、古墳時代の終わりごろ(約1,400年前)には、^{たてあな}縦穴建物や^{ほったてぼら}掘立柱建物などの建物がつくられて、ムラが営まれていたようです。

今年度の調査でも、この時期の大規模な造成工事の跡や、建物跡が見つかったほか、コンテナ100箱にも及ぶ、たくさんの遺物が出土しました。



空から見た高住牛輪谷遺跡 (南東から)



弥生時代の終わり～
古墳時代初めごろの穴倉
丘陵のすそから、約1,800年～1,700年前の穴倉が3つまとまって見つかりました。穴倉の中には、穀物や木の実が保存されていたと考えられます。



古墳時代の銅鈴が出土したようす
造成土の上にたまった土の中から、青銅製の鈴が出土しました。古墳時代終わりごろのものです。この時期の鈴はとてもめずらしく、ほとんどが馬の胸元に飾りとしてつけられていました。当時の馬は身分の高さの象徴。高住牛輪谷遺跡にもえらい人が住んでいたのでしょうか？



古墳時代の造成工事 ～牛輪谷ニュータウン！？～

古墳時代には大がかりな造成工事がされていました。山すそを削った土や、遺跡の外から運び込んだ粘土で谷を埋め、平場がつくられていました。造成は、古墳時代の初めごろと、古墳時代の終わりごろの2回にわたって行われていました。2回とも造成土の厚みが1m近くもあるので、大変な労力がかかったことと思います。古墳時代終わりごろの造成でできた平場には、径30cmほどの穴がたくさん集中している部分がありました。柱の根元が残っていた穴もあったので、これらは建物の柱穴だと思っています。今のところ、具体的にどんな建物が何軒建っていたかは分かりませんが、まだ調査していない東側にもたくさん柱穴がありそうなので、造成土の上にはたくさんの建物が建っていたと考えられます。まるで現代のニュータウンの造成工事みたいですね。



古墳時代初めごろの造成土 (オレンジ色の土)



古墳時代終わりごろの造成土 (上の白色の土)



集中して見つかった古墳時代終わりごろの柱穴 (左上は穴の中に残っていた柱の根元)

